

IMSAC 2025 国際諮問委員会開催

2025年10月3日、分子科学研究所 国際諮問委員会 (IMS Advisory Committee 2025) を開催いたしました。本委員会は、研究所の組織体制と運営を評価するとともに、今後の戦略的方向性について国際的な視点から助言をいただくことを目的としています。

委員会メンバーとして、菊池昇座長 ((株)トヨタコンポン研究所)をはじめ、Mischa Bonn (マックス・プランク高分子研究所)、David A. Leigh (マンチェスター大学)、James M. Lisy (イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校)、David E. Manolopoulos (オックスフォード大学)、Matthias Weidemüller (ハイデルベルク大学)の6名をお招きしました (敬称略)。会議はオンサイトとオンラインを併用したハイブリッド

形式で行いました。

委員会では、まず13の研究領域・施設・センターの主幹・施設長より活動実績をご報告いただき、続いて渡辺所長から分子研の現状と戦略的取り組みについて概説がありました。その後の包括的討論では、委員の先生方から率直なご意見を数多くいただきました。

議論では、分子研の研究水準が世界最高レベルにあることが高く評価される一方、構造的な課題も指摘されました。具体的には、研究グループの規模、部門内外の連携、教員の後継者確保、大学院生の獲得、UVSORの将来戦略などが主なテーマとなりました。委員の先生方からは、研究者間の連携を深め、分子研全体として相乗効果を生み出す組織づくりの重要性が繰り返し強調されました。



委員会での議論と事後にいただいた追加コメントをもとにAdvisory Reportを取りまとめ、菊池座長より渡辺所長にご提出いただく予定です。

これからの分子研の研究組織に関する議論も開始されました。50周年を迎えた分子研が本報告書の提言を活かし、次の50年に向けてさらに発展することを期待いたします。最後になりましたが、委員会の準備・運営にご協力いただいた皆様に心より御礼申し上げます。

(解良 聡・志村 真希 記)

International Workshop for Young Scientists on Crystalline Organic Materials (YSCOM2025)

報告：東北大学多元物質科学研究所 出倉 駿

9月26日から28日の3日間にわたり、岡崎コンファレンスセンターにて有機固体分野の若手国際ワークショップ [International Workshop for Young Scientists on Crystalline Organic Materials (YSCOM2025)] を開催した。本ワークショップでは、後述する広義の「有機固体」の研究に携わり、化学・物理・計算・材料の多様なバックグラウンドを有する国内外の大学院生・若手研究者が一堂に会し、最先端の研究発表と活発な議論が

行われた。

有機固体の分野には「有機固体若手の会」という、特定の学協会等の上部組織を持たない若手研究者・学生主体の団体が存在し、「有機固体若手の学校」と称して国内向けの若手研究会を定期的に開催している。筆者は2022年度より「校長」という立場で若手の学校の主催・運営に携わってきた。有機固体若手の会は、元々は分子性導体の分野の若手研究者を中心とした団体であるが、分子性導体の分野は合成化学による分子・結晶構造の発見や最適

化、実験的物性物理による電気伝導性・磁性・誘電性・光機能性等の開拓、理論・計算による機構解明・予測、材料科学によるデバイス活用などの、異分野間の交流によって発展してきた歴史がある。一方で、近年では対象分子・物質の多様化、最先端物理の先鋭化、さらにはコロナ禍を境とした人的交流機会の減少も相まって、当該分野の将来を担う若手研究者同士の国際的かつ分野横断的交流の機会は益々その重要度を増している。そこで近年では、「有機固体」を従来の分子性導体に加え、オリ